

## ジャパンサーチ連携促進のための説明会の終了について

テーマ：ジャパンサーチ発進！～連携拡大に向けて  
日時：令和元年7月17日（水） 14:00～17:00  
場所：国立国会図書館東京本館新館講堂及び関西館第一研修室（TV会議使用）  
主催：国立国会図書館、内閣府知的財産戦略推進事務局  
参加者：289名（東京本館249名、関西館40名）  
その他：配布資料、説明会の記録及び本説明会への質問回答は、国立国会図書館ホームページに掲載している<sup>1</sup>。

概要は以下のとおり。

## (1) 第Ⅰ部：「ジャパンサーチ（試験版）」について

- ジャパンサーチ（試験版）の機能と連携方法について（国立国会図書館）
- ジャパンサーチ（試験版）との連携事例報告
  - ・国立公文書館（平野宗明氏）
  - ・東京国立博物館（村田良二氏）
  - ・国立新美術館（室屋泰三氏）
  - ・人間文化研究機構（大内英範氏）
  - ・立命館大学（金子貴昭氏）
- ジャパンサーチ（試験版）のメタデータ利活用事例報告
  - ・神崎正英氏（ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表）
  - ・中村覚氏（東京大学情報センター助教・国立国会図書館非常勤調査員）

## (2) 第Ⅱ部：パネルディスカッション「デジタルアーカイブをつなぐ意義～ジャパンサーチに期待すること」

高野明彦氏（国立情報学研究所教授）をモデレーターとして、連携機関によるパネルディスカッションを行った<sup>2</sup>。主な内容は次のとおり。

- ジャパンサーチとの連携は、権利関係を見直すよい機会になった。
- 異分野のデータが共同のプラットフォームに上がることによる利活用の広がり期待する。
- 今後のジャパンサーチの充実のためには小規模館との連携が課題となる。つなぎ役が手助けをして組織化することが重要である。
- 小規模館との連携は、民間ベンダーなど民間部門の助力によって連携を拡大していくことが現実的だろう。
- 分野ごとに、公共・民間が協力して、メタデータ標準等を議論する体制ができるとよい。
- ジャパンサーチを楽しむファンのようなグループができるとよい。

<sup>1</sup> [https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/201907\\_jps.html](https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/201907_jps.html)

<sup>2</sup> 参加者からの質問を基に議論を展開した。参加申込みの際に事前質問ができるようにしたほか、説明会当日も参加者からの質問を紙及びWebフォームで受け付けた。

(参考)

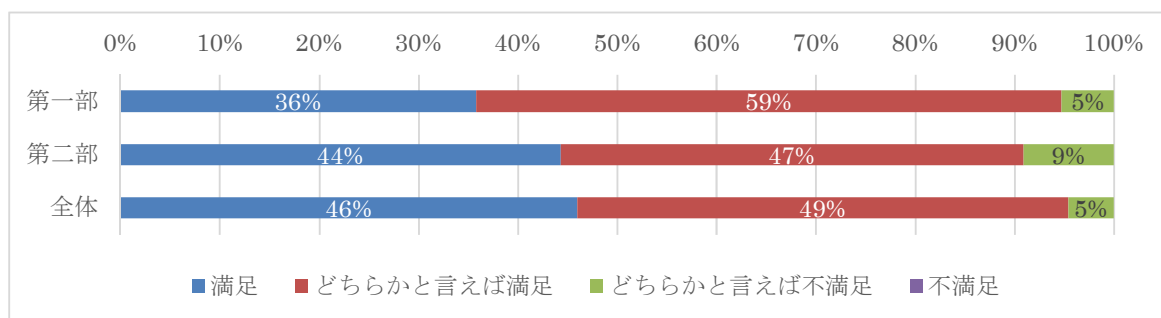
## ジャパンサーチの連携促進に向けた説明会アンケート集計結果

### 1. 有効回答数

100名

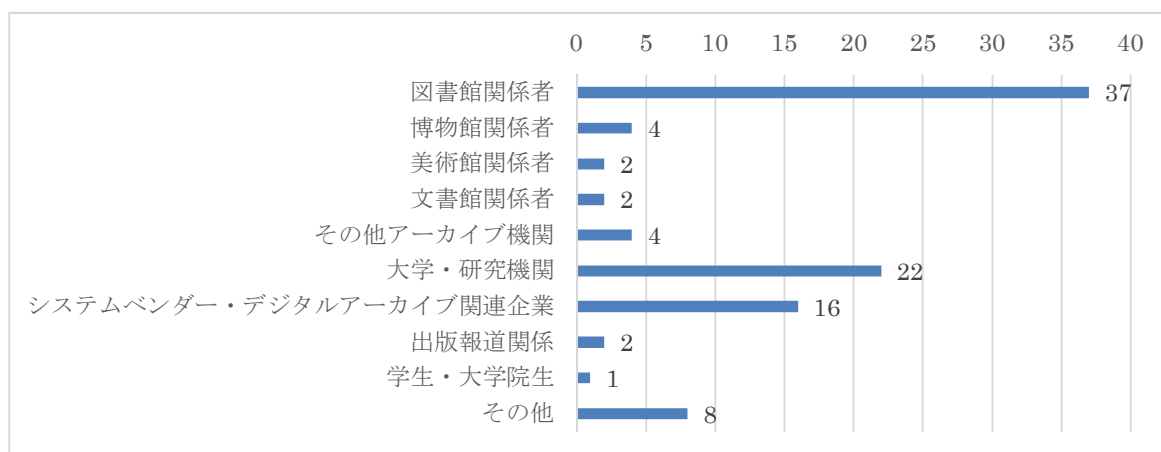
### 2. 満足度

第一部の満足度（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計。以下同じ。）は95%、第二部の満足度は91%、全体では95%であった。



### 3. 参加者の所属

大学・研究機関 22%、システムベンダー及びデジタルアーカイブ関連企業 16%、博物館・美術館・文書館関係者 8%、図書館関係者が最も多く 37%であった。（複数回答）



### 4. 主な意見・感想

- ・多くの連携事例が聞けて大変勉強になった。
- ・デジタルアーカイブがジャパンサーチを通じて検索できるのはとてもよい。
- ・ロングテールの取込みに期待する。
- ・小規模館にとって、ジャパンサーチとの連携が最も有効でコストのかからない広報手段になると期待している。
- ・利活用事例をもっと聞きたかった。